

特別講演 1

「大腸疾患、最近の話題 ～がんから便秘まで～」

福井大学学術研究院医学系部門 内科学（2）分野 准教授
平松 活志 先生

大腸 ESD の登場により側方発育型腫瘍（LST）などの大きな腫瘍でも、粘膜内癌であれば内視鏡的に一括切除することが可能となりました。さらに、粘膜下層へ浸潤した癌であっても、一定の基準を満たせば内視鏡的に根治できることが明らかとなり、大腸 ESD の適応拡大を巡る議論が白熱しています。特にリンパ節転移を予測するバイオマーカーの探索は基礎・臨床の両面から注目されており、興味深いところです。

一方で、最近になり、これまでにない新しい機序の便秘薬が話題になっています。すでに処方経験をお持ちの先生方も多いかと思いますが、選択肢が増えることによって、現場では適切な使い分けが必要になってきます。

本講演では大腸がんに対する内視鏡的治療の新たな展開と最近登場した便秘薬に関する知見をご紹介します。